

# 令和4年度 下水道事業会計決算の概要

令和5年(2023年)12月  
札幌市下水道河川局



# 1 公営企業会計の特色

- 公営企業会計の収支は**収益的収支**と**資本的収支**の2種類に区分されます。

## 【収益的収支】

- ・ 施設の運転、維持管理に関する収支
- ・ 1年間の経営成績を表す

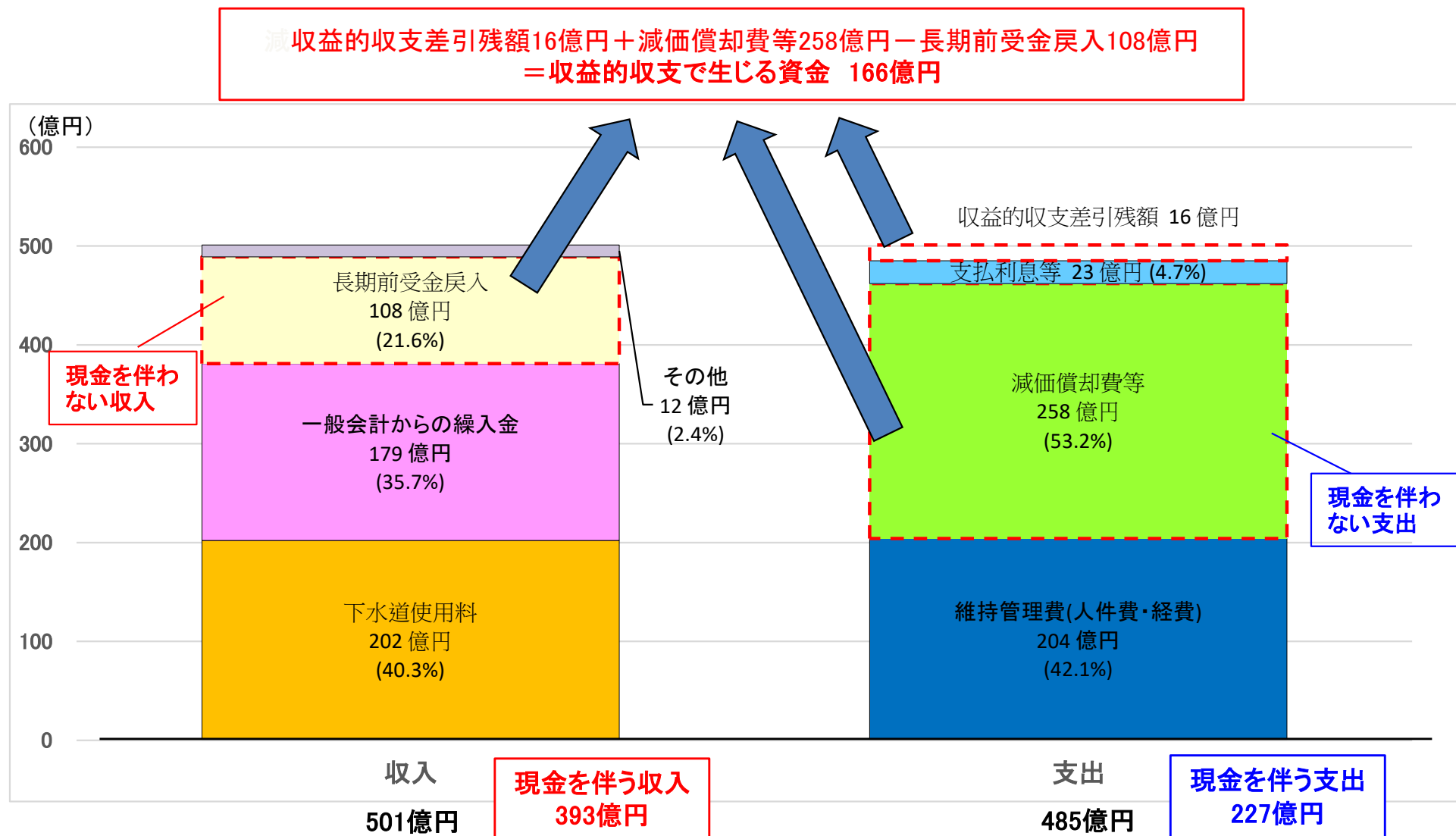
## 【資本的収支】

- ・ 施設の建設・改築に関する収支
- ・ 収入と支出の効果が複数年に及ぶ

- 収益的収支で生み出した資金は、資本的収支の資金不足を補うために使用します。

## 2 令和4年度決算の概要(収益的収支)

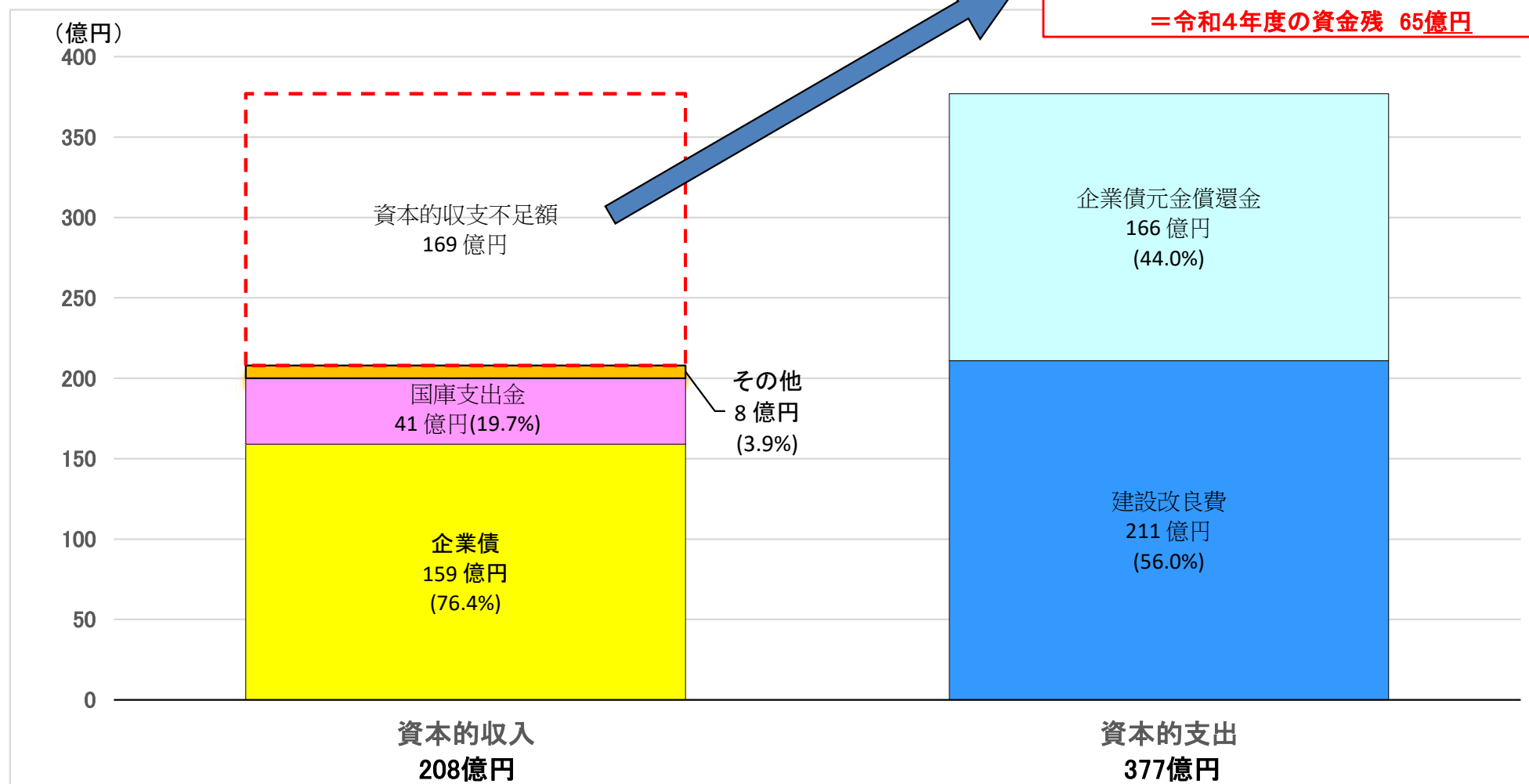
- 収益的収支は16億円の黒字となり、減価償却費等による内部留保資金と合わせて166億円の資金を生み出しました。



## 2 令和4年度決算の概要(資本的収支)

- 資本的収支は169億円の資金不足となり、収益的収支で生み出した資金と前年度の資金残で補填しました。

前年度末時点で残った資金 72億円  
-退職給付引当金の取崩等 4億円  
+収益的収支で生じる資金 166億円  
-資本的収支の不足額 169億円  
=令和4年度の資金残 65億円



## 2 令和4年度決算の概要（令和4年度予算との対比）

### 【収益的収支】

収入では維持管理費の減少に伴い一般会計負担金が減少し、支出では委託料等で契約差金が生じたほか、年度終盤に電気料金の上昇が落ち着き動力費に不用が生じたことなどにより維持管理費が減少した結果、収支は10億円好転しました（6億円→16億円）。

### 【資本的収支】

収入では建設改良費の減少に伴い企業債及び国庫支出金が減少し、支出では請負工事費等で契約差金が生じたほか、翌年度への繰越などにより建設改良費が減少した結果、収支は5億円好転しました（△174億円→△169億円）。

### 【資金残】

収支の好転などにより、資金残は11億円好転しました（54億円→65億円）。

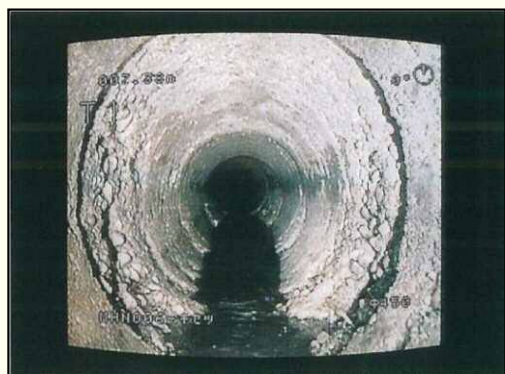
### 3 令和4年度決算の主要事業

#### 【下水道施設の再構築】 老朽管の改築

- 札幌市の下水道施設は、昭和40年代から50年代に集中的に整備を進めたため、今後、耐用年数(50年)を超える管路が急増します。
- そのため、管路の劣化状態を調査し、修繕による延命化を図るか、改築を行うか総合的に判断し、計画的に対策を進めていきます。
- 令和4年度は32.6kmの改築を実施しました。

#### 下水道施設の整備状況

昭和初期に整備した下水管（老朽管）

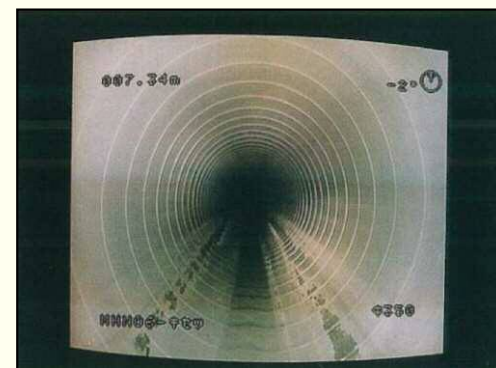


(更生前)



管更生工法による改築

管更生工法による管路の改築



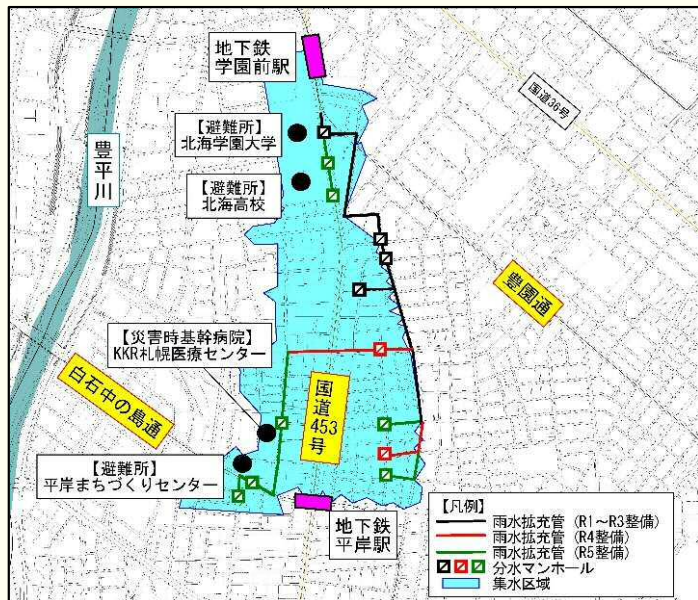
(更生後)

# 3 令和4年度決算の主要事業

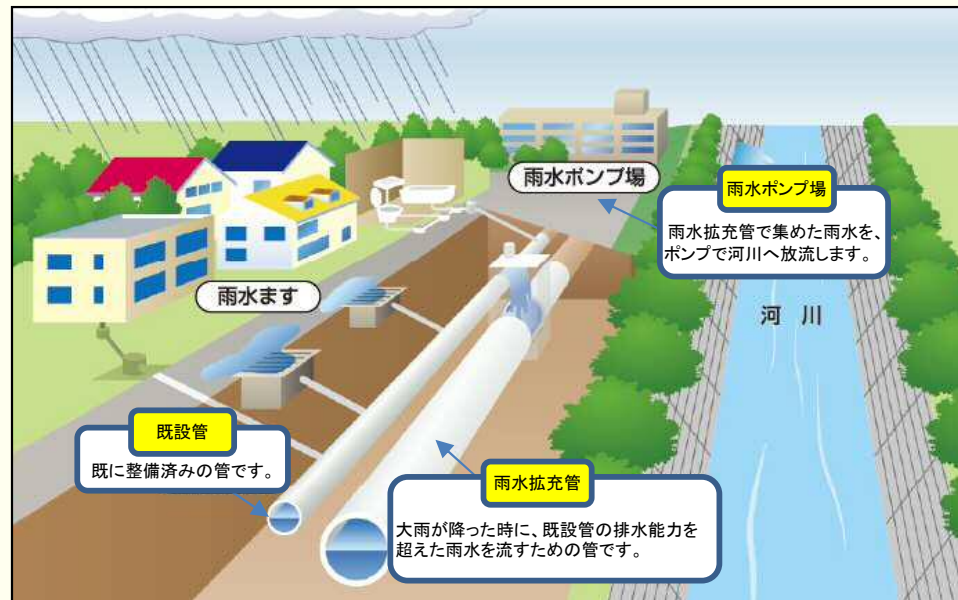
## 【下水道施設の災害対策(雨水対策)】雨水拡充管の整備

- 札幌市では、10年に一度程度の大雨（1時間雨量35mm）の排除を目標に雨水拡充管の整備を進めています。
- 現在は、国の補助制度を活用し、令和元年度から令和5年度までの期間で平岸地区において整備を行っており、令和4年度は約0.8kmの雨水拡充管を整備しました。

令和4年度整備箇所図



雨水拡充管イメージ図



## 4 札幌市下水道事業の課題と取組

### 【課題】財務体質の強化

- 今後、老朽化した下水道施設が急激に増加することから、将来的な建設事業費と維持管理費の増加は避けられません。
- 一方で、今後、札幌市の人口は減少に転じる見込みであり、現行の料金体系に基づく推計では、下水道使用料は将来的に大きく減少する見通しです。
- このため、財政状況は厳しさを増していく見通しです。



### 主な取組

- 改築基本方針に基づいて、計画的な維持管理及び改築を行います。
- 処理施設の土木・建築構造物の改築にあたっては、将来の人口減少を見据え、処理施設の統廃合などによる施設規模の適正化を検討します。
- 業務を効率化するための新たな取組を検討します。
- 国の交付金制度を積極的に活用するほか、用地など下水道事業が持つ資産の最大限の活用を検討します。
- 徹底したコストの縮減や収入を確保する取組などを実施した上で、適正な受益者負担について具体的に検討します。